



# 地域の日本語研究

[キーワード: 応用日本語学 地域方言 言語習得]

教授 村上敬一

## <研究の概要>

- 若年層から高年層まで、日々改新を続ける地域方言と、就労を目的とした外国人が、地域で生活するための日本語教育を「地域の日本語」として包括し、研究テーマとしています。
- 地域方言については、徳島県内をはじめ、四国、九州の高校、自治体などと連携して、地域の言語変容と、そこに生活する個人の言語変化、第一言語(方言)習得の様相を明らかにすべく研究しています。その一例が、右に記した池田高校との連携研究です。
- 先の東日本大震災、熊本地震の教訓をふまえ、有事の際、医療・ボランティア活動などで被災地を訪れる人々と、地域住民とのコミュニケーションに支障がないように、支援者向け方言パンフレット(下図)を作成するなど、応用日本語学の観点からも研究を進めています。
- 日本語教育については、第二言語習得の観点から、外国人が地域に暮らすために必要な地域方言の様相を明らかにし、その普及のための実践活動を進めています。

## <主要研究業績>

- 村上敬一ほか(2016)『新日本言語地図』朝倉書店
- 村上敬一(2013)「日本短期研修を通じた日本語習得と日本語に対する意識：台湾の日本語学習者を例として」、『徳島大学総合科学部言語文化研究, Vol.21, 107-119,

## <地域(行政)、NPOや企業との連携・共同研究実績>

- 「地域方言を題材とした高大連携による教育活動の実践」  
徳島県立池田高校探究科, 2017年
- 「SW-ingキャンプ 台湾研修」  
徳島県立脇町高校SSH研修, 2017年

## <地域(行政)、NPOや企業と連携・共同研究可能なテーマ>

- 市町村史における「方言(地域言語)」項目の調査・記述
- 中学校、高等学校における日本語(言語習得)研究

## 支援者のための 知っておきたい阿波弁

県西部 ver.



- 聞き取りにくい発音
  - 「せ」「ぜ」が「シェ」「ジェ/ヂェ」という発音になる  
(例) 病院のシェンシエーに言われたわ。  
(病院の先生に言われた。)
  - 「言った」→「ゆうた(音)」、「洗った」→「あろおた(洗)」になる  
(例) 明日、雨降るってゆうたでえ。  
(明日、雨が降るって言ったじゃないか。)  
このお血もうあろうたけん。  
(二のお血もう洗ったよ。)
  - 進行形が「～まる」に変化する  
(例) 雨がふんりよる。 ……現在進行形  
(雨が降っている。)  
今、友達とあそんびよる。 ……現在進行形  
(今、友達と遊んでいる。)
  - 終助詞に「え」や「で(でか)」を用いる  
(昨日、テレビを見ていた。)

専門分野：日本語学, 社会言語学

E-mail: murakami.kei@tokushima-u.ac.jp

Tel: 088-656-7117

Fax: 同上

詳細情報: <http://pub2.db.tokushima-u.ac.jp/ERD/person/261428/profile-ja.html>